



下関市総合計画

Shimonoseki City Master Plan

Ⅱ . 基本構想

- 第1章 まちづくりの基本理念
- 第2章 まちづくりの将来像
- 第3章 地域別まちづくりの方向
- 第4章 主要指標の見通し
- 第5章 施策体系

第1章 まちづくりの基本理念

まちづくりの基本理念

まちづくりを担うのは人であり、人與人、人と自然、人と歴史のつながりを大切にしつつ、新たなまちを共に創りあげていくことを、本市のまちづくりの理念として、次に定めます。



自然と歴史と人が織りなす交流都市

～自然と人、人與人、ふれあいで輝く共創のまちづくりを目指して～

「元気」

すべての人が健康で元気に暮らせるまちづくりを目指します。

「つながり」

自然と人、人與人の新たなふれあいが原動力となるまちづくりを目指します。

「共創」

(キョウソウ:共に創りあう)

地域相互の緊張感をエネルギーに、交流力¹と内発力²が高まる共創のまちづくりを目指します。

¹ 交流力: 市内外における地域間の交流、市民や組織、団体間の交流など、様々な交流を活発にする力。

² 内発力: 自らの地域が有する特性や可能性を捉え、それらを活かしながら、まちづくりを自律的に推進する力。

第2章 まちづくりの将来像

「まちづくりの基本理念」を踏まえ、目指すべき7つの将来像を設定します。

1

情報があふれ、活動しやすい便利なまち

(都市基盤)

市域全体を見据えた快適で利便性の高い都市づくりが求められます。このため、本市が有する既存の都市機能集積を活かしつつ、都市構造の再編成を行い、地域間の適切な機能分担と、それらの連携による一体的かつ計画的な都市づくりを推進します。

また、広域交通網の整備や公共交通機関の充実強化など、他地域から本市へのアクセス及び市内の連絡など、総合的な視点に立った交通体系の整備及び交通需要の適切な管理による円滑な移動手段の確保を推進します。

さらに、行政区域の広がりに応じ、道路や公園などの適切な整備による計画的な市街地の形成を進めるほか、情報通信ネットワーク³の整備をはじめ、観光・コンベンション⁴機能の充実・高度化を図ることにより、情報があふれ、活動しやすい便利なまちの実現を目指します。



沖合人工島



リフレッシュパーク豊浦



³ 情報通信ネットワーク:電気通信回線網とコンピューターなどにより、文字や映像、音声などを送受信するために結ばれたもの。

⁴ コンベンション:人や物、情報の交流などを目的に非日常的に開催される会議、大会、展示会、イベントなどのこと。コンベンション機能とは、会議の会場となる会議場、展示場、ホールや参加者の宿泊施設、来訪者への案内施設などを指す。

2

人と自然にやさしく安全で安心して暮らせるまち

(自然環境・生活環境)

本市は、関門海峡や美しく長い山陰海岸、緑豊かな山林、ホタルの生息する河川など、特色ある自然環境・景観に恵まれており、これらの適切な保全と活用を図ります。

また、良好な住環境の形成に向けて、上下水道や地域・生活関連施設の整備、良質な住宅供給の促進などにより、市民生活の快適性の確保を図ります。これらは、環境に配慮した生活や産業活動を行うことによって確保されるものであるため、ごみ処理やリサイクルなど、地域のコミュニティ⁵を基本に資源を大切に作る取り組みを進めます。

さらに、自然災害や火災、事故、犯罪などの予防対策と迅速・的確な対応に取り組むことにより、人と自然にやさしく安全で安心して暮らせるまちの実現を目指します。

牧崎波の公園



豊田湖



こども みまもり隊

⁵ コミュニティ:地域社会を意味する語。

将来に希望をもって意欲的に働ける自立したまち

(産業振興)

本市の産業は、個性ある歴史・文化と豊かな自然環境を背景に、農林水産業、造船業、商業、貿易などを軸として展開し、今日ではサービス業など第三次産業のウエイトを高めながら発展してきました。

今後は、農林水産業については、生産振興だけでなく、地域の歴史や文化に彩られた観光資源、また生涯学習⁶の場としての活用や合併を契機とした都市との交流により振興を図ります。

また、これまで蓄積されてきた高度な技術・知識の活用、異業種交流、産学官連携などを促進し、ベンチャー企業⁷などの育成による新たな産業の創出と既存産業の再生による地域づくりを進めます。

さらに、地域住民が主体となるコミュニティビジネス⁸を促進し、地域問題へのきめ細かい対応や雇用の創出などを図り、将来に希望をもって意欲的に働ける自立したまちの実現を目指します。



⁶ 生涯学習: 自己の啓発や充実のためや、生活の向上、職業上の能力の向上などのために、自分の自発的な意志に基づいて、自分に適した手段や方法によって生涯にわたって行う学習活動のこと。

⁷ ベンチャー企業: 高い志と成功意識の強い起業家を中心とした、新規事業への挑戦を行う中小企業のこと。

⁸ コミュニティビジネス: 地域の人々が、地域に眠っている資源(労働力、原材料、技術力)などを活用して行う小規模ビジネスで、利益を地域に還元するもの。

4

観光や交流から生まれる多彩で魅力あるまち

(観光振興)

製造業などの停滞や公共事業の縮小が予想される中、地域の新たな活気を生み出すためには、観光などによる交流人口⁹を増加させる必要があります。

まず、住みよい魅力あるまちづくりを進めるために拠点施設の整備に努め、地域の自主的な交流活動を促進するとともに、地域ごとの施設どうしがネットワーク¹⁰により連携し、一体となったまちづくりに取り組みます。

そして、本市は、海、山、温泉、史跡、フクなどの豊かな観光資源を有しており、これら地域固有の自然や文化などを活用し、まちづくりや農林水産業との連携によるグリーン・ブルーツーリズム^{11・12}、エコツーリズム¹³などの体験型観光などの創出を促進します。

また、地域内の観光交流はもとより、北九州市や県内他地域などとの連携、さらには広く国際的な観光客の誘致にも努めます。

さらに、集客産業の関係者だけではなく、市民一人ひとりが、温かいおもてなしによって訪問者を迎え入れることなど、地域のホスピタリティ¹⁴の醸成に努め、観光や交流から生まれる多彩で魅力あるまちの実現を目指します。



なし狩り



朝鮮通信使行列再現



⁹ 交流人口:住所地の人口(定住人口)とは異なり、通勤・通学、スポーツ、買い物、観光など様々な人々の交流によりその地を訪れた人口をいう。

¹⁰ ネットワーク:網状につながったもの。又はつながりのこと。

¹¹ グリーンツーリズム:緑豊かな農村地域において、その自然・文化・人々との交流を楽しむ、滞在型の余暇活動の総称。

¹² ブルーツーリズム:島や沿海部の漁村に滞在し、魅力的で充実した海辺での生活体験を通じて、心と体をリフレッシュさせる余暇活動の総称。

¹³ エコツーリズム:豊かで荒らされていない自然を持つ地域をフィールドに行われるもので、その地を訪れる旅行者が、自然や文化についての正しい深い知識を得、その地域ならではの自然とのふれあいを体験できるような旅行。

¹⁴ ホスピタリティ:もてなし。もてなす心。

誰もが健康で、ふれあいを大切にした温かみのあるまち

(保健・医療・福祉)

少子高齢化が進むなか、日常生活を営むうえで世代や性別を超えた人と人とのつながりが社会、地域を支える大きな力となります。

子どもを安心して生み、育てることができ、障害者や高齢者を含めすべての市民が健康で、地域社会で安心して生きがいのある生活が送れるように施設と環境の整備を進めるとともに自立の支援を促進します。

また、自立と相互扶助社会¹⁵の実現に向けて、行政、地域組織、社会福祉団体及び個人がともに連携を深め、地域福祉活動の促進を支援します。

そして、地域医療¹⁶のシステム化¹⁷を進め、地域間での格差のない医療体制、救急医療の整備に努めます。

高齢者をはじめ多くの市民が安心して保健・医療・福祉を受けるために、国民健康保険や介護保険などの安定的な運営の維持に努めます。



ひかり童夢

豊北保健福祉センター

¹⁵ **相互扶助社会**:市民生活などにおいて、お互いに助け合う社会のこと。

¹⁶ **地域医療**:地域住民と医療関係者、行政などが協力し、その地域の限られた社会資源を最大限有効に活用し、健康の維持増進、医療サービスの効果や効率の向上などを図ること。

¹⁷ **システム化**:個々の要素が有機的に組み合わせられた、まとまりをもつ体系をつくること。

6

地域の特色を活かしたまなびのまち

(教育・文化)

市民の生きがいの向上と、地域の歴史や文化に対する理解の醸成、地域間交流の促進などに向けて、生涯学習活動に係る拠点施設の整備とその情報ネットワーク¹⁸化及び市民活動の支援を図ります。

学校教育については、家庭や地域との連携を一層深め、総合的な学習の視点に立った、地域への愛情と生きる力を育む教育を推進することにより、地域に開かれた学校づくりに努めます。

また、心身ともにバランスのとれた個性的でたくましい子どもを育てていくため、家庭と学校と地域が一体となった青少年の教育・文化・スポーツ活動を推進します。

さらに、本市が今まで育ててきた東アジアをはじめとする国際交流を一層推進し、学校教育、社会教育などを通じた国際性豊かな人材の育成及び国際レベルのスポーツ・文化活動などによる国際交流事業を促進します。

これらの環境整備を推進し、地域が培ってきた歴史・文化を活用し、地域の特色を活かしたまなびのまちの実現を目指します。



豊北中学校

夕やけマラソン 1/10 in ほうほく

¹⁸ 情報ネットワーク: インターネットに代表される双方向かつ多様な情報伝達のこと。

市民も企業も行政もみんなで担える元気なまち

(協働のまちづくり)

地域が自らの判断で个性的なまちづくりを進めるため、まちづくりへの市民の参画意識の高揚を図りながら、市民参画とボランティア¹⁹活動などの市民活動を促進するとともに、行政情報の公開を推進し、市民、企業、行政が協働して取り組むパートナーシップ²⁰のまちづくりを進めます。

また、住みよい魅力ある地域づくりを進めるために、まちづくりに関わる情報・交流機能の強化に努め、地域の自主的なコミュニティ活動を促進するとともに、情報ネットワークなどにより地域間の連携を促進し、一体的なまちづくりに取り組みます。

一方、将来的に大きな歳入の増加が見込めない中で、多様化する種々の行政需要にきめ細かく対応していくため、行政事務の効率化・簡素化、情報技術の活用などにより一層の効率的な行財政運営を行います。



¹⁹ ボランティア:自主的に社会事業などに参加し、無償の奉仕活動をする人。

²⁰ パートナーシップ:各々が対等の立場で関係を持つこと。提携、協力、協力体制、共同経営などのこと。

第3章 地域別まちづくりの方向

地域の特性や既存施設の立地状況などを踏まえ、軸及びゾーンなどを設定し、本市における地域別整備の方向性を示します。

■ 地域別整備方針図

(1) ゾーンの形成

農林水産業振興ゾーン

農林水産業の振興を図る地域として発展を目指します。

観光・レクリエーション²¹ゾーン

学術文化や地場産業と既存の温泉や観光資源が有機的に連携した観光レクリエーションゾーンとして発展を目指します。

田園住宅ゾーン

自然と調和のとれた良好な田園住宅地域として発展を目指します。

都市拠点ゾーン

本市の経済産業の中心として、より高度な都市的サービスを担う地域として発展を目指します。

地域連携軸

(2) 軸の形成

地域連携軸

本市の連携機能を担う道路、鉄道などの交通網や情報ネットワークを地域連携軸として位置付け、その機能維持・強化を図ります。

²¹ レクリエーション: 仕事や勉強などの疲れを癒やし、精神的・肉体的に新しい力を盛り返すための休養・娯楽のこと。

第4章 主要指標の見通し

(1) 人口

本市の人口は、平成17年において290,693人^{*}であり、今後も減少傾向が続くものと予想されます。しかし、本計画の基本理念である「自然と歴史と人が織りなす交流都市」の実現を目指し、平成27年の目標人口を300,000人として、人口の定着を促す施策の展開を図ります。

^{*}国勢調査 平成17年10月1日

(2) 世帯数

世帯数については、その数自体は増加するものの、一世帯当たりの人員が減少する核家族化が引き続き進行することが予想されます。

一世帯当たりの人員は、過去の推移から平成27年には2.22人／世帯と予想されるため、平成27年の世帯数を約13万5千世帯と想定します。

(3) 就業人口

本市の就業人口については、人口の推移と同様に減少傾向にあり、今後もこの傾向が続くことが予想されます。

しかしながら、産業振興や就業機会の確保に努め、現状(平成12年)の就業率(総人口に対する就業人口の割合:47.6%)を維持するものとし、平成27年の就業人口の目標を約14万3千人と想定します。

(4) 交流人口(観光客数)

交流人口(観光客数)は、増減を繰り返してきましたが、近年は順調な増加傾向にあります。

本市では、より一層の広域観光交流の促進を図り、過去において最高の観光客数を示した平成3年の5,508千人を超える交流人口を確保することを目標として、平成27年の交流人口を約5,600千人と想定します。



関門海峡花火大会



角島

第5章 施策体系

「まちづくりの基本理念」、「まちづくりの将来像」、「地域別まちづくりの方向」に基づき、本市が取り組む施策体系を次の様に定めます。

